

ちりふ文化

第175号

2025年1月1日

発行所 知立市文化協会

知立市文化会館内
(パティオ池鯉鮒)

TEL 0566-83-0151

FAX 0566-83-0242

http://chiryu-bunka.org/

メール: chiryubunkyou@katch.ne.jp

謹賀新年

第48回知立文化賞・文化奨励賞・
第9回文化芸術新人賞 表彰式

11月10日(日)文化会館

かきつばたホールにて開催



千支: 巳

喜びのいっば

知立文化賞

本多 純一



この度、知立文化賞を受賞する運びとなり、まずもって私をご推挙いただいた

た皆様に感謝申し上げますとともに、私を祭り好きにしてくれた祭り関係の先人や、ご指導してくださった今は亡き豊澤千賀龍師匠に哀悼と感謝の意を表したく存じます。この賞は、平成5年頃に知立祭りの太夫、三味線弾きの不足から、後継者育成を、板倉ミチ様が知立義太夫教室を



知立文化賞は、知立義太夫会の本多純一さん。太夫の語りで、山車文楽の伝統を重んじ、文化継承に努力され、次世代の育成に尽力されました。知立文化奨励賞は、洋画家の粕谷邦男さん。色彩豊かな作品を通して、美術文化の向上・発展・次世代の育成に尽力されました。また、知立市美術展の審査員を21年間務めて頂きました。知立文化芸術新人賞は、ヴァイオリン奏者の秋田華子さん。幼い頃からヴァイオリンを習い、オーケストラの一員として、また、東日本大震災で被災された地域に出掛け、演奏活動を続けています。受賞された皆様、本当におめでとうございます。

立ち上げ、その場に私も参加することができ、指導してきたことが認知され、代表して私がご褒美をいただいたことと思っています。今後も祭り文化発展のため、尽力することを誓い、私のお礼の挨拶とします。

知立文化奨励賞

粕谷 邦男



この度は、知立文化奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。知立団地に約25

年、青春時代を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

知立文化芸術新人賞

秋田 華子



11年前の小学6年生の時、パティオ池鯉鮒での少年の主張大会で、

東日本大震災のボランティア活動でヴァイオリンを演奏したことを話しました。同じ場所で、このような賞を頂けたこと、大変光栄に思います。

知立市の先生方をはじめ、多くの方々のご指導のおかげと感謝申し上げます。

一月には、幼い頃から発表会やコンクールで演奏している知立リリオホールでの「ミニコンサート」に出演させていたいただきます。現在、桐朋学園大学ディプロマコースに在籍しており、多くの皆様に心温まる音楽をお届けできますよう今後も精進してまいります。

令和7年 年初めの俳句

令和7年の新年を迎え、会員の皆さんが年最初に作った俳句を紹介します。17音に込めた心が動いた瞬間を、読み解く想像力を鍛えましょう。

- 歳重ね 元気でいたい お正月 住田三枝子
- 福寿草世界に咲いて 幸せの輪を 住田三枝子
- お年玉 新顔そろえ 新札用意 吉田ひとみ
- 父親の 毎年作る 松飾り 吉田ひとみ
- お正月 心あらたに むかいけり 清水 善江
- 初詣しやりしやりと玉砂利を 清水 善江
- 冬蜜柑 開きて香る 年初め 小林 義和
- 初日の出 光輝く 巳年かな 寺田 節子
- 吾子たちに笑顔あふるお年玉 寺田 節子
- 初詣 後期高齢 願う宮 杉浦 五一

第46回

知立市民文化のいっば

文化協会会員による作品発表と市民体験型の文化の祭典が行われました。

6月8日(土)9日(日)創作部門展、体験コーナーは、『拓本』って、何?。講師は拓友会の神谷英男さん。15日(土)16日(日)美術部門展。体験コーナーは「写真教室」。



写真教室



親子茶道教室



文化のつどい美術部門



創作部門展



鍋つかみ人形劇



生け花体験教室



体験コーナー拓本



文化のつどい華展

講師は写真部の田井中道夫さん。茶道部は、8日（土）、ロビーで、宗偏流の中野宗敏さんが、9日（日）売茶流の近藤良仙窟さんが、席主を務めてくださいました。「親子茶道教室」は、講師は裏千家の森宗玲さんが、「生け花体験教室」では、講師は真正流の豊島美代子さんが指導してくださいました。

第49回 愛知県文連 美術展

令和6年11月19日（火）～24日（日）まで、愛知県芸術文化センター8階と愛知県美術館ギャラリー・H・I室にて、開催された愛知県文連美術展に、次の方が受賞されました。

◆愛知県教育委員会賞

〔書部門〕 杉浦 寿子

◆特選

〔書部門〕 市川 由美

〔書部門〕 白井 恵子

◆入選

〔日本画部門〕 早川智恵子

〔洋画部門〕 野畑 りさ

〔書部門〕 金山 浩美

〔書部門〕 安井 恵

文化協会相互の連携のもとに開催するこの美術展は、愛知県の美術文化の普及や振興と次代を担う新人の発掘を目的とした美術展です。知立市からは、「書」の村田麗水さんが、審査員として活躍されています。

第25回

しみん芸術祭

今年度 予定した事業は全て行うことができました。



詩吟・剣詩舞・
大正琴のつどい
6月23日（日）



創作部門展
11月2日（土）3日（日）



民謡・歌謡のつどい
10月26日（土）



邦楽・日本舞踊のつどい
10月12日（土）



洋楽（音楽・舞踊）の
つどい
9月15日（日）



C・R・F
（ちりゅうロックフェスティバル）
8月4日（日）



市民音楽祭
7月14日（日）

小中学生美術
査員他47点、



第39回知立市美術展・第19回知立市小中学生美術展が10月3日（木）から6日（日）、パティオ池鯉鮒で開催され、日本画の柴原於十さん（知立市）と小森柚奈さん（知立南中学校3年）が特別賞（愛知県知事賞）を受賞されました。知立市美術展は210点（無鑑査、審査員他47点、小中学生美術

知立市美術展 小中学生美術展



市民茶会（茶道部）
11月10日（日）



美術部門展（選抜展）
11月8日（金）～10日（日）



民謡のつどい
11月3日（日）

素晴らしい！ 日展で特選二回

喜びを隠しきれない様子で、「とても嬉しい」と何度もお話の中で出てきた言葉。今回、日展で「一濤（なみ）」を出展され、特選を受賞された竹河さん。令和5年度の知立文化奨励賞を受賞された、現代工芸・籐工芸作家さんです。自宅で、竹河籐教室を開き、籐工芸の指導をし、普及に努めてみえます。令和2年度の日展で、「躍動」が特選を受賞。今回の作品は、上質の籐の皮を黒く染め、作品に自分の人生の思いを織り込み、最後の仕上げに漆を塗り、



小森柚奈さんの作品
「知立の文化はいつまでも」



柴原於十さんの作品
「温室」

展は、市内10校から93点の応募があり、無鑑査作品等と共に展示され、約1,000名の来場者の方々に作品を鑑賞して頂きました。絵画（日本画・水墨画・洋画）、書、写真、工芸美術部門の金賞作品は中央公民館の2階に1年間飾られます。是非 お出掛けください。

オリジナル作品を制作し、出品されました。「人生そのものを感じさせる想いを全て込めた作品」の「湧」は、現在東京で飾られています。



竹河さん

文化講演会

「こころは赤絵の中に」
人生は母がほめてくれた落書きから始まった」

講師：斎藤 吾朗氏(画家)

11月10日(日) 文化賞等の表彰式後の午後2時から、文化講演会が開催されました。



斎藤吾朗氏の講演を聞いて

白井 恵子

小さい頃から絵を描くのが大好きな子が、仏壇にチョークで落書きをしても、母親から叱られるどころか、その絵に手を合わせてくれたこと。このエピソードから始まりました。褒めて育てるとは、こういうことなのでしょう。ずっと絵を描いていこうというモチベーションを持ち続けられるものになるものだと思います。

モノ・リザの模写をしたいと思ったのも、その延長なのでしょう。ループル美術館に模写を許可されるまでのお話も楽しいものでした。その後、活躍の場も人脈も大きく広がっていきました。帰国後は、地元をモチーフにした絵もたくさん描かれています。何枚も赤絵の作品を見せて頂きました。知立の山車の絵もありました。「知立八橋かきつばた園の絵は、どこかに「かきつばた」の文字が隠れている遊び心のあるものでした。

情熱のほとばしるような楽しいお話が次々に繰り広げられて時間が過ぎるのも忘れるほどでした。赤絵の熱い力に圧倒されました。

愛知県民茶会の開催

10月13日(日) 愛知県民茶会が蒲郡市民会館で行われました。安城、刈谷、蒲郡、西尾、岡崎、知立、豊橋、豊田市の8市から10人の席主が担当しました。

知立市からは、宗偏流の赤尾宗栄さんが席主を務められました。16人のお弟子さんのお手伝いがあり、入場者は430人。8代目家元の「宗有」氏の短冊「観自在」が飾られ、季節の花を添え、赤いもうせんが敷かれており、華やかでした。赤尾先生は、「復興」と「希望」にこだわりを持ち、物語性のあるおもてなしをしたいと考えられた茶席でした。「和敬清寂」のことはあるように、和(茶人として)、敬(もてなし)、清(点前・寂(空間造り))と日本文化の美と歴史を継承していく指導理念「和」を見せて頂きました。知立両口屋喜泉製の「薄もみじ」のお菓子が季節にぴったりでした。



県民茶会蒲郡



赤尾宗栄さん

直撃インタビュー

知立市を拠点にして女流作家として40余年研鑽されている現在、多くの同好友人に恵まれ、日々知立文化の発展に寄与されてみえる、日本画の倉知紀子(としこ)さんにお話を伺いました。

日本画の倉知紀子さん

柴田 千明

倉知さんは、元々は油絵を上重原の服部先生に1、2年習っておられたそうです。子育ても一段落した40歳くらいの時に、何かを…と考えていた折に、友人と訪れた名古屋の毎日文化センターで、初めて日本画と出会われました。その当時、白土会館の飯田史朗先生が指導されておられ、その教室に通い始めたのが、日本画を始めたきっかけだとのこと。日本画と油絵の大きな違いは、まず、日本画は油絵のように布の上に描くのではなく、雲肌麻紙という和紙の上に描きます。基になる下絵を透明シートに写し、それをさらに雲肌麻紙に下絵を写し、その紙をベニヤ板の土台の上に貼って、色をのせていくということです。また、絵の具は、油絵の絵の具と違い天然の鉱石を砕いて作る粒子状の絵の具で、顔彩と呼ばれ、とても高価なものです。粒の大きさも大きな粒から小さな粒まで十種類ほどあり、そのままでは下絵に絵の具が

つかないので、水と膠を溶かして絵の具にのせていくのだそうです。色を何度ものせ、発色を加減していくので、大変な手間と時間がかかるのだとか。

また、絵を立ててしまうと色が流れてしまうので、置いた状態で色をのせ、乾いてから立てて全体の様子を見ながら、またおいて、さらに色をのせるといいうように、丁寧な作業を繰り返し、作品を仕上げていくため、一年に一作もできないこともあるのだそうです。

けれども、「その複雑で大変な完成までの工程がとても面白いのです。」と倉知さんは楽しそうにおっしゃいます。最も心を注がれるのは、構図を決めるまでと、構図が決まってから描いて色をのせていく時の、発色の具合だそうです。50歳を過ぎてからは、行きたかった海外にも、風景を求めてスペインやインドなどに行かれたそうですが、絵の題材に文楽を取り入れたものがあるのは、高校の修学旅行で、淡路島に行った折に文楽人形に出会われ、その後、知立に住むようになり、同じように、知立の祭礼に文楽もあると知り、感動されたそうです。その文楽を題材にして描かれたのが、パティオ池鯉鮒の受付横に展示されている「虚」の文楽人形を遣う黒衣の衣装の作品です。黒の色の美しさについても、

倉知先生は、「黒でも何色も使っていますから……」とおっしゃっていました。是非、皆さんもその作品の美しさを確かめにパティオ池鯉鮒に来館の折は、倉知先生の言葉を思い出して、観賞してみてください。



倉知さんの作品「文楽人形」



柴田さん（左）と倉知さん（右）

会員だより

●第25回知立書道連盟新春展

とき 令和7年

1月17日（金）～19日（日）

ところ パティオ池鯉鮒

2階ギャラリー

●知立市所蔵作品展

とき 令和7年

2月12日（水）～16日（日）

ところ パティオ池鯉鮒

2階ギャラリー

●第34回知立市生け花展

とき 令和7年

3月1日（土）・2日（日）

ところ パティオ池鯉鮒

2階ギャラリー

※今年は会場を変更しました。お間違えないようにお願いします。



月釜茶会

会場 知立文化広場

茶室（八橋庵）

時間 10時～15時

当日券 500円

令和7年度 月釜茶会席主

1月19日（日）

宗偏流

2月16日（日）

宗偏流

3月9日（日）

中野 宗敏

4月13日（日）

中野 宗敏

7月13日（日）

宗偏流

9月14日（日）

宗偏流

10月5日（日）

赤尾 宗栄

12月14日（日）

宗偏流

裏千家 永田 宗和

野村 宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

宗和

入会部会の紹介

☆芸能部門

・邦楽伝統芸能からくり保存会

杉浦 五一（3人）

・民謡 シルバー踊りん会

多田美代子（8人）

※退会部会はありません。

愛知県文化協会連合会の活動

令和6年度は、10月6日（日）

岡崎市民会館あおいホールで、

西三河9市1町で活躍中の29団

体による「県文連芸能大会」が

行われました。知立市からは、パ

レエ（B A L L E T S T U D

I O N）に、4曲踊っていただ

き、とても好評でした。



県文連芸能大会岡崎

◆県文連芸能大会（西三河部）

日時 令和8年3月15日（日）

9時開場

9時30分スタート

ところ 刈谷市総合文化センター

大ホール

お知らせ

◇文化協会新年懇話会

文化協会の応援者、賛助会員、

会員同士の楽しい会です。

とき 令和7年1月25日（土）

ところ ホテルクラウンパレス

知立

◇文化協会研修旅行

年に一度の日帰りバス旅行です。

とき 令和7年3月3日（月）

研修先 静岡県掛川市方面

◇令和7年度文化協会総会

とき 令和7年4月19日（土）

午後2時～

各部会が、円滑な事業転換を進

めて行きます。理事・運営委員の

方は必ず、出席をお願いします。

※総会終了後、運営会議・実行委員会、

理事会を開催します。

※各部会で、運営委員が交代される場合

は、2月未までに事務局に連絡を願

いします。

◇文化協会55周年記念公演

令和7年11月9日（日）、文化

協会55周年記念公演「よいとこ

池鯉鮒、魅せまSHOWTIME」

が開催されます。現在、出演団体

14団体で90分の公演をしていこう

と、シナリオとタイムスケジュール

の練習計画をたて、8月11日（月）

と11月8日（土）をリハサル日

として、練習を重ねています。5年

ごとの文化協会の総部会をあげて

の大きなイベントに向け、事業

委員会やスタッフ可能な方をお

願いし、素晴らしい公演にしてい

きます。今回、美術部門が中心と

なり、節目の年にふさわしい公演

です。ご期待ください。

お願い

◇「ちりふ文化」の原稿提出

文化協会の会報「ちりふ

文化」は、年二回、6月と1月

に発行します。

団体紹介、発表会等の活動

記事を掲載希望される団体

は、4月8日（火）、11月7日

（金）までに事務局に提出して

ください。（ホームページから

記載様式をダウンロードでき

ます。）

◇文化協会の備品について

催事、茶会等の際に、文化

協会所有の紅白幕を利用さ

れる場合は、利用日程が重複

していないければ、お貸しでき

ますので、事前にご連絡くだ

さい。

◇文化協会事務局開局について

平日の火曜日から金曜日の

10時から16時まで在勤してい

ます。但し、12時から13時まで

は、昼休憩（パティオ池鯉鮒

休館日・祝日休み）

電話 0566-83-0151

FAX 0566-83-0242

あとがき

今年は「巳年」です。

表紙の「巳」の作品は、創作部門

の「折り紙を楽しむ会」の酒井

康夫さんの折り紙作品です。

「チーム文協」で、「つどい花咲

く文化協会」を盛り立てるには、

チームの力を生かさなければい

けません。会員の皆さんの声が、

人生の元氣や勇気に繋がります。

今年もよろしく願います。